

海外安全対策情報（2017年7月～9月）

1 社会・治安情勢

8月17日、UNHCRはウガンダに避難している南スーダン難民が100万人に達したと発表しました。

9月20日、警察報道によると、今年に入りワキソ県（首都カンパラ市隣接県）では、金銭目的により23名の女性が何者かに殺害される事件が発生しております。エンテベ地区では犯罪増加に伴い、お店や教会等は午後10時まで閉めるよう、また、同時以降はボダボダ（バイクタクシー）も運転を控えるよう指示されております。警察からの注意喚起として、エンテベ地区、ナンサナ地区、カタビ地区では、夜間の女性一人での外出を控えるよう、また、夜間の外出の際は身分証明書を所持するよう呼びかけています。

過去3ヶ月間でカンパラ市では101台の車両が押収されまた。押収された車両は全て偽造ナンバーまたは使用できない海外のナンバープレートをつけていました。

9月21日、カンパラ市で大統領の年齢制限を撤廃する法案の提出計画に講義する大学生がデモを起こし、警察が催涙ガスを使用しデモ活動を鎮圧しました。

2 一般犯罪・凶悪犯罪

(1) 盗難・強盗事件

ア 邦人被害事案

○7月、詐欺被害及び偽札被害が1件ずつ発生しました。

○8月、住居侵入被害が1件発生しました。

○9月、スリ被害が2件発生しました。

イ 邦人以外

○9月16日、警察報道によると、最近では日中にも武装強盗が多く発生しているため、怪しい行動をしている者を発見した際は、警察機関へ報告するよう呼びかけています。

(2) 殺人事件（報道された主な事件）

○カンパラ市（Kampala）

9月16日、カンパラ市内で武装しバイクに乗っていた2人組が警察官を殺害し、銃及びお金を盗み逃走しました。

○ムコノ県（Mukono）

9月1日、カンパラ市に隣接しているムコノ県の工場内に2名の男性が強

盗に入り、中国人女性を殺害し逃走しました。その後、犯人は逮捕されました。

(3) 強姦事件

邦人が被害に遭ったとの情報には接していませんが、ウガンダにおいては強姦事件が深刻な問題となっています。また、被害者となる女性の大半が未成年者であり、近親相姦が頻繁に発生しています。

○カムリ県 (Kamuli)

今年に入り、カムリ県では136名の女性が強姦被害に遭っています。また、250件のDV被害も登録されています。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ・爆弾事件は発生していません。しかし、ウガンダ政府は近隣国ソマリアの治安向上を目的にアフリカ連合ソマリアミッション (AMISOM) に自国軍を派遣し、ソマリア武装テロ組織「アル・シャバーブ」に対する掃討作戦に参加しています。このため、同組織はウガンダへの反発を強めており、しばしば当国を名指しで報復する旨発言していることから、引き続き注意する必要があります。

また、シリアやチュニジア、バングラデシュで発生した日本人が殺害されるテロ事件をはじめ、ISIL (イラク・レバントのイスラム国) 等のイスラム過激派組織又はこれらの主張に影響を受けた者によるとみられるテロが世界各地で発生しています。したがって、日本人・日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険があることから、このような情勢を十分に認識して、誘拐・脅迫・テロ等の不測の事態に巻き込まれることがないように、渡航情報及び報道等により最新の治安・テロ情報等の関連情報の入手に努め、日頃から危機管理意識を持つとともに状況に応じて適切で十分な安全対策を講じるよう心がけてください。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人が誘拐・脅迫される事件は発生していません。しかし、ウガンダにおいては人身売買および身代金を目的とした誘拐事件が多数発生しており、邦人が巻き込まれる可能性も否定できないため、滞在中は警戒を怠ることのないよう十分注意してください。

○ジンジャ県 (Jinja)

7月6日、ジンジャ県内の病院で女性が赤ちゃんを誘拐する事件が発生しました。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

対日感情が良好なこともあり、日本企業であることを理由に標的とされる可能性は低いですが、上記「テロ・爆弾事件発生状況」のとおり、テロが世界各地で発生していることを踏まえれば、日本人・日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険も排除できませんので、十分注意のうえ安全対策を怠らないよう努めてください。

以上